

# 【報告】在宅療養・看取りワーキンググループ会議



医師  
看護師  
薬剤師  
作業療法士  
介護福祉士  
介護支援専門員  
保健師

構成メンバー（14人）

# ワーキンググループ会議の開催状況

年	月日	内容
令和4年	6月 5日	コアメンバー会議
	7月21日	第1回ワーキング会議
	8月 8日	コアメンバー会議
	9月 8日	第2回ワーキング会議
	10月 6日	第1回多職種研修会事前協議
	12月 5日	第2回多職種研修会事前協議
令和5年	2月 2日	第3回多職種研修会事前協議
	2月17日	コアメンバー会議
	3月 2日	第3回ワーキング会議

## データから見える本市の看取りの現状・問題点

- ・今後ますます**死亡者数が増加**
- ・近年、**介護老人保健施設や老人ホーム死の割合が微増傾向**にある。
- ・病気や要介護状態になっても、**いつまでも住み慣れた地域で暮らしたいと希望する人が40.7%と最も多い**。
- ・最後のときを過ごしたい場所の希望は、「**自宅**」が**51.7%で最も高い**。
- ・自宅以外で最期のときを過ごすことを希望する理由は、「**家族や周囲に迷惑をかけたくない**」が**59.5%と最も多い**。
- ・人生の最終段階になっても、在宅医療サービスや介護サービスを受けながら過ごすことが出来ることを**約6割の人が、知っている**。
- ・人生の最終段階の医療・介護の希望を**家族等に伝えている人は4人に1人**

山口県保健統計年報、周南市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査より

### めざすべき姿

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・介護関係者が、本人（意思が示せない場合は、家族）と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援する。

# 実施計画（R4～R5）

	解決すべき課題	取組の方向性	取組内容
本人	元気な時、意思表示ができる時から、望む暮らしや人生の最終段階の医療・ケアについて考える	望む暮らしや人生の最終段階の医療・ケアについて考える、話し合う機会の提供(啓発)	<b>「在宅療養ガイドブック」の周知・活用</b>  <b>【方法(評価)】</b> ・しゅうなん出前トーク (実施回数・参加者数)  ・ケーブルテレビ番組 →YouTube配信(視聴数)  ・市広報(配布数)  ・医療・介護関係者主催イベント等(配布数)  ・病状や介護度の変化時等医療・ケアの節目(配布数)
	希望する療養場所や人生の最終段階における医療・ケア等について、家族や必要に応じて医療・介護関係者と話し合う		
家族	本人の望む暮らしや最期の迎え方等について、意思表示ができる時から家族間で共有しておく		
	人生の最終段階の医療やケアにおいて、家族に求められることを知っておく		

# 実施計画（R4～R5）

	解決すべき課題	取組の方向性	取組内容
医療・介護専門職	在宅医療や看取りに関する知識を持つ	看取りや意思決定支援（ACP）の知識やスキルの向上	<b>多職種研修会の開催</b>  【方法（評価）】 ・事例を通じた学びの場の定期開催 （開催数、参加者数、参加者の声）
	人生の最終段階の意思決定支援に必要なスキルを身に着ける		
	本人・家族が希望や意思を表出しやすい機会の確保や関係性の構築		
	本人・家族の意思を尊重する看取りを、医療・ケアチームで行うための体制づくり		
	本人の意思を尊重する看取りが提供しやすい医療・ケアの体制整備		
		多職種が連携して看取りやACPを行う体制づくり	<b>連携ツールの検討</b>  【方法（評価）】 ・多職種の情報共有・連携に必要なことを具体化 （成果物の完成、運用）

# 「在宅療養ガイドブック」の周知・活用

取組	実施状況(R4)	実施計画(R5)
<p>【方法(評価)】</p> <p>◆しゅうなん出前トーク (実施回数・参加者数)</p> <p>◆ケーブルテレビ番組 →YouTube(視聴数)</p> <p>◆市広報、SNS(配布数)</p> <p>◆医療・介護関係者主催 イベント(配布数)</p> <p>◆医療・ケアの節目 (病状や介護度の変化時 等の配布数)</p>	<p><b>しゅうなん出前トーク</b></p> <p>①もしものときのために「人生会議」をしよう (実施回数:3回／参加者数:28人)</p> <p>②元気なうちから知って欲しい12のこと (実施回数:5回／参加者数:60人) ※2月末現在</p> <p><b>ホームページ・広報・SNS・文字放送</b></p> <p>①ホームページ(随時)</p> <p>②広報(11月号) 出前トークの周知</p> <p><b>医療・介護関係者主催イベント等</b></p> <p>①認知症講演会(配布数:254部)</p> <p>②多職種連携研修会(配布数:52部)</p> <p>③市役所窓口(配布数:48部)</p> <p><b>医療・ケアの節目等</b></p> <p>①新南陽市民病院(配布数:100部)</p> <p>②老健ゆめ風車(配布数:50部)</p> <p>③地域包括支援センター(配布数:20部)</p>	<p><b>ケーブルテレビ番組</b> 市政番組作成(秋頃予定)</p>

# 「在宅療養ガイドブック」の周知・活用

(市民に届ける、職場で活用するための方法等)

ワーキング会議より

## 活用場面

- ・ 地域包括支援センターや市役所窓口での介護保険相談、申請時
- ・ ケアマネジャーの訪問や利用契約時
- ・ 高齢者サロンや百歳体操、郵便局、銀行、スーパー等高齢者が集まる場
- ・ 認知症がテーマの講座（サポーター養成講座、講演会等）
- ・ 病院、老健等での入退院時

など

元気なうちから、  
もしものことを  
考えるきっかけに

## 周知方法

- ・ 薬局や病院等に配置して自由に持ち帰るより、言葉を添えて配りたい
- ・ まずは、ポスターやチラシで周知し、QRコードで展開
- ・ 節目年齢へチラシ送付（介護保険や医療の保険証の送付時）
- ・ 専門職の研修やイベントで活用事例を踏まえて

など

ポスター等で広く周知  
渡すときは言葉を添えて

# 多職種研修会の開催

取組	実施状況(R4)	実施計画(R5)
<p>【方法(評価)】</p> <p>◆事例検討会の定期開催 (開催数、参加者数、参加者の声)</p>	<p style="text-align: center;"><b>多職種研修会</b></p> <p>①令和4年11月17日(参加者数:108人) ②令和5年 1月19日(参加者数:100人) ③令和5年 2月13日(参加者数: 85人)</p> <p style="text-align: right;"><b>合計293人</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>年4回程度開催</b></p>



**第3回 あ・うんネット周南多職種連携研修会**

## 実践例から学ぶ 介護施設における多職種での看取り

高齢化の進展や多死社会の到来等により、どこを「終の棲家」にするのか、誰が看取するのかは、今後の大きな課題の一つでもあります。近年、増えつつある介護施設での多職種による看取りについて、実践例を通じて一緒に学びませんか。

**日 時** 令和5年 2月13日(月) 19:00~20:30  
(受付開始 18:30~)

**開催方法** 会場 周南市役所 1階多目的室 参加無料  
ハイブリッド形式  
WEB Zoom を使用したオンライン配信  
※WEBの場合は、申込時にいただいたメールアドレスに参加URL等を送付します。  
視聴に必要な通信料等の費用については参加者の負担となります。

**対 象** 市内の医療・介護・福祉関係者(会場 50名、WEB100名 先着順)

**内 容** 第2回の振り返り あ・うんネット周南在宅療養・看取りワーキンググループ  
実践報告・意見交換 「(仮題)施設での看取りの取組について」  
特別看護老人ホームやまみ荘 松永 洋氏

お申込み・お問合せ

別紙「参加申込書」又は「参加申込フォーム」にて、  
令和5年2月6日(月)までにお申し込みください。  
※WEB 参加の方には、開催3日前までに招待メールを送信します。  
メールが届かない場合は、下記へご連絡ください。

参加申込フォーム [あ・うん周南](https://www.city.shunan.lg.jp/tyoshiki/24_63236.html) **ご検索**

https://www.city.shunan.lg.jp/tyoshiki/24\_63236.html

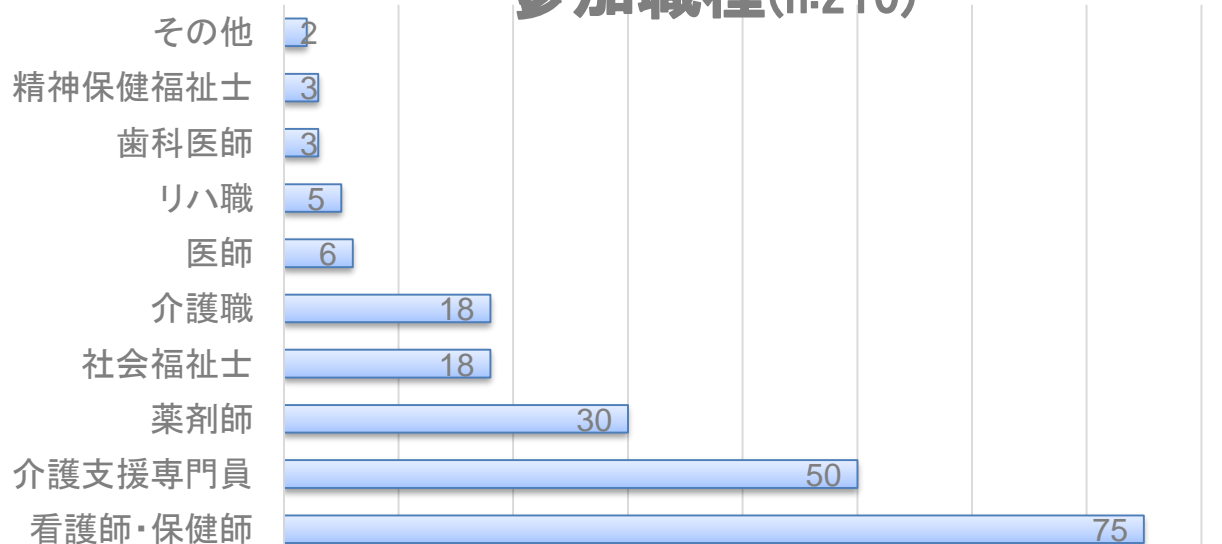
周南市地域福祉課(担当:杉田、松永)  
TEL:0834-22-8462 / FAX:0834-22-8396 / E-MAIL: [fukushi@city.shunan.lg.jp](mailto:fukushi@city.shunan.lg.jp)

主催:あ・うんネット周南 在宅療養・看取りワーキンググループ

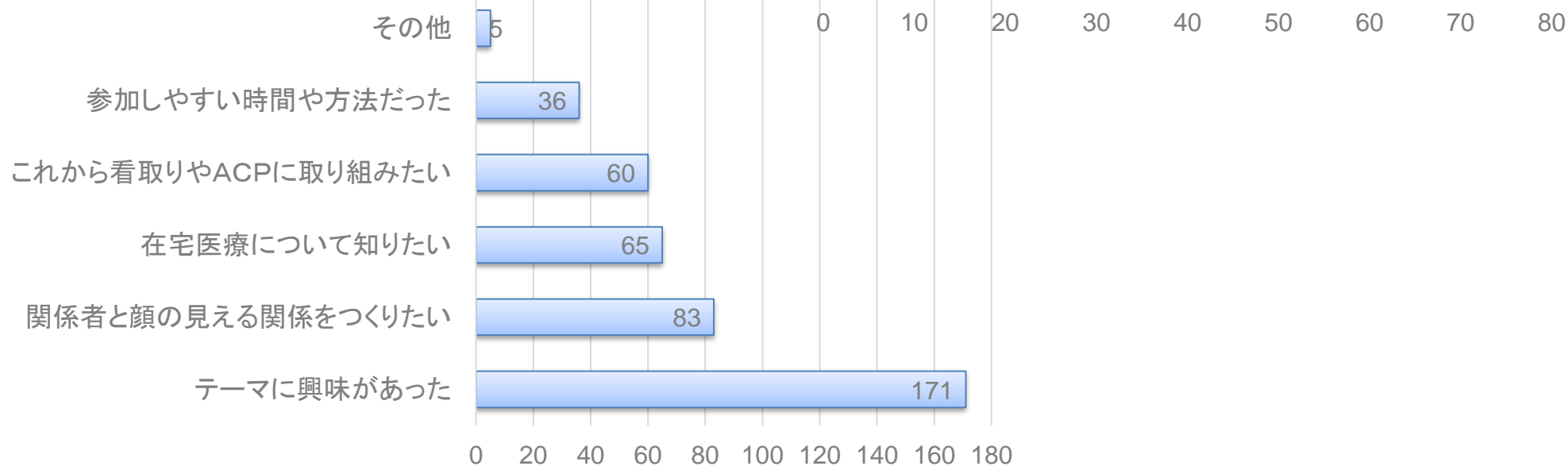


# 「多職種研修会」の開催（アンケート結果）

## 参加職種(n:210)

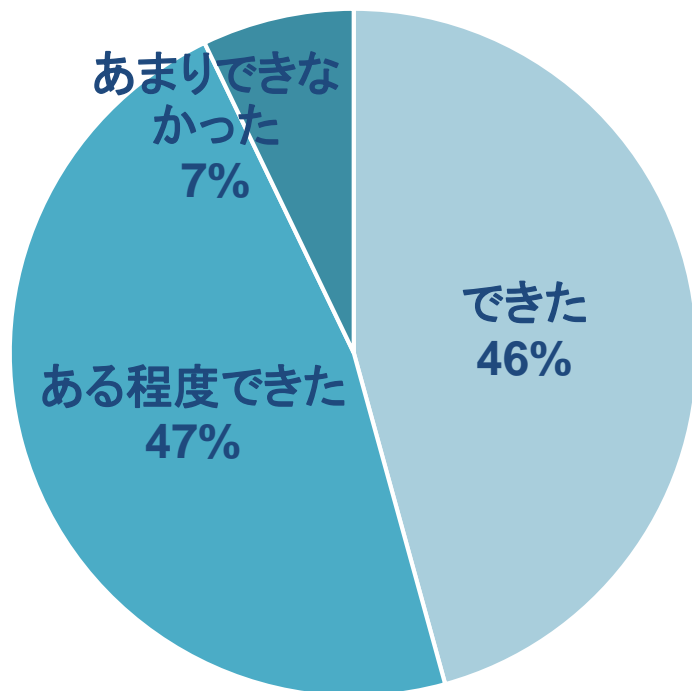


## 参加動機(複数回答)

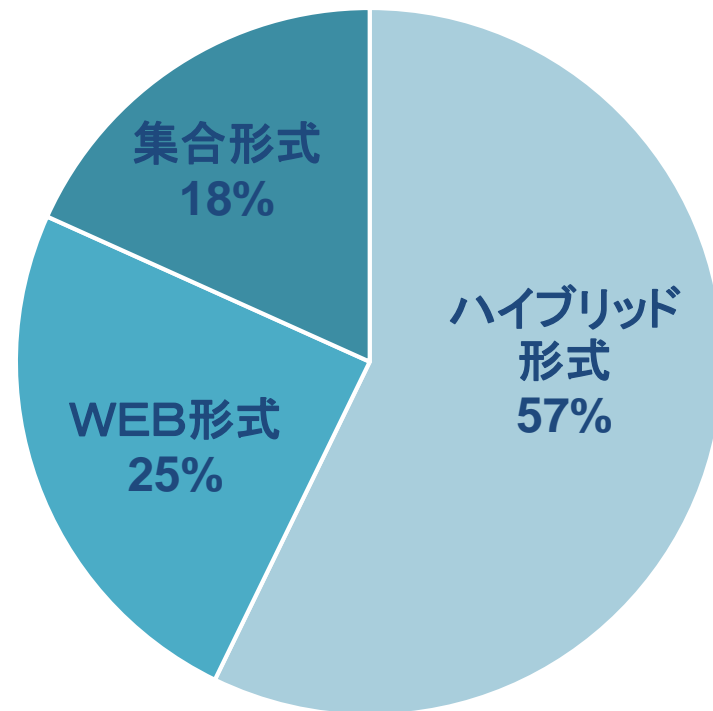


# 「多職種研修会」の開催（アンケート結果）

## 知識の習得（n：210）



## 参加しやすい方法（n：208）



# 「多職種研修会」の開催（成果や改善点）

## 成果

- ・ 経験がない人も、生活の場での看取りの経過や支援を知ることができた
- ・ 役割分担してケアしていることが再認識できた
- ・ 支援者の思いを聞け、どの職種にも学びがあった
- ・ 先の見通しを持って、元気な時から関わることの必要性を認識できた
- ・ 今まで研修に参加できない人も参加できた（WEB・聴くだけ参加OK）

多職種の役割や  
看取り・ACPを  
知る機会に

## 改善点

- ・ コロナ禍で横のつながりが求められているため、交流を意識した方法で
- ・ 死やACPを身近に感じられる機会に  
（例：もしバナゲームの体験、テーマに応じたミニレクチャー等）
- ・ 出来ていることだけでなく、問題点や弱みを伝え、連携につなげる
- ・ 申込み時に参加内容（グループワーク等）を選択できるように

参加しやすく、ステップ  
アップできる場に

## 連携ツールの検討

取組	実施状況(R4)	実施計画(R5)
<p>【方法(評価)】</p> <p>◆多職種の情報共有・連携に必要なことを具体化(成果物の完成、運用)</p>		<p><b>連携ツールの検討</b></p> <p>情報連携ワーキングの設置</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①共有方法の把握</li><li>②SNSツールの検討</li></ul>

在宅医療・介護等の円滑な情報共有を進めるため、医療・介護従事者で利用されているICT連携ツール(医療介護専用の非公開型SNS)を市内の共通ツールとして運用するための検討